

れいわ ねんど
令和2年度

ぶんかげいじゅつ こども いくせい そうごう じぎょう
文化芸術による子供育成総合事業
— 巡回公演事業 —



らく ご かん しょう
落語の鑑賞

らくご けっ むずか げいのう いま らくご わ
落語は決して難しい芸能ではありません。今までの“落語は分かりにくい、
ふるくさ せんにゆうかん すべ す じゅうぶん たの らくご
古臭い”という先入観を全て捨てて、十分にお楽しみください。また落語は
らくごか ひとり さまざま とうじょうじんぶつ えん さまざま ばめん きやくさま そうごう
落語家一人が様々な登場人物を演じ、様々な場面をお客様に想像していただく、
きゃくさま つく あ わら げい かた
いわばお客様とのコミュニケーションで作り上げる「笑い」の芸です。肩ひじ
は せかいさいこう わげい らくご たんのう
を張らずに、世界最高の話芸「落語」をたっぷりとご堪能ください。



めば元寄席

制作：影向舎

し
知っていますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

ねん
1977年にユネスコのようせい せつりつ こくさいおんがくひょうきかい かいき よくとし
1978年から毎年10月1日を、世界の人が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流
を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
にほん ねん まいとし がつついたち こくさいおんがく ひ さだ
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

ぶんかげいじゅつ こども いくせい そうごう じぎょう じゅんかいこうえんじぎょう
文化芸術による子供育成総合事業 — 巡回公演事業 —

わ く に いちりゅう ぶんかげいじゅつだんたい しょうがっこう ちゅうがっこうなど こうえん こども すぐ
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた
ぶたいげいじゅつ かんしょう きかい え こども はっそうりよく のうりよく いくせい
舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、
しょうらい げいじゅつか いくせい こくみん げいじゅつかんしょうのうりよく こうじょう もくてき
将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

じぜん こども じつえんしどうまた かんしょうしどう おこな じつえん
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、
できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

落語とは

オチのある噺「落とし噺」から生まれた。

落語とは、庶民の生活や、お伽話などを滑稽な内容として語るもので、噺の結末にオチがつくのが特徴です。東京（江戸）で発達した江戸落語と、大阪・京都の関西圏（上方）を中心に発達した上方落語があります。

寄席とは

演芸が専門に行なわれている劇場。

落語に興味があったら、ぜひ寄席に落語を聴きに行きましょう。でも、寄席で演じられるのは落語だけではありません。講談、漫才、漫談、音曲、手品、曲芸など、バラエティーに富んだ番組（プログラム）になっているのです。前座（若手）の落語から始まり、漫才や手品などの色物と呼ばれる演芸と、二ツ目（中堅）の落語がテンポよく進んでいき、最後に真打ち（ベテラン）が登場します。寄席という小さな演芸場の中では、お客様の笑い声やかけ声が絶えず聞こえ、とことなく非日常的な、江戸時代にタイムスリップしたかのような時間が流れています。

「落語の小道具」
・落語で使われる小道具は扇子と手拭いだけ。
・扇子と手拭いを色々なものに見立て、落語の演出効果として利用します。扇子がお箸になったり、手拭いがサツマイモになったり、、、
落語は見ているお客さんも一緒に想像する芸です。落語家が使っている小道具が、今何になっているかをイメージしながら聞いてみましょう。

上方落語

東西(江戸・上方)の落語を楽しむもう！



江戸落語

上方落語はお家の外で行われる大道芸から発達したので、みんなの注意をひきつける為にとても賑やかに演じられます。対して江戸落語はお家の中のお座敷で演じられてきたので、じっくりと聞かせる、粋な雰囲気。違いを楽しみましょう。

※プログラム内「3. 上方落語」「6. 落語」では上記出演者の中から各1名ずつ出演します。

めばえ寄席プログラム

めばえ寄席

1. 落語

まずは若手のイキイキとした落語を！

2. 色物

色物とは寄席で行なわれる、落語以外の演芸！

3. 上方落語

にぎやかな関西圏中心に発達した上方落語でお楽しみ!!

-お仲入り(休憩)-

4. 大喜利

～こぼなしグランプリ(体験コーナー)～
それぞれの感性で作成した作品の中から優秀作を厳選。
作成した生徒さんが発表します。結果はいかに？

5. 色物

寄席の看板は落語は黒、その他は赤文字で出演者を書いていたため色物と呼ばれる。さてどんな芸人が現れるかお楽しみ!!

6. 落語

いよいよトリです。看板真打ちによる古典落語を披露!!

※プログラムは変更の可能性あります。